



滋賀大学教育学部
卒業生 神保 民香



右から2人目が私

自分にしかできない留学を

「今の時代、留学している人なんていっぱいいるよね～」世間でよく聞くこの言葉。そんな中、私は留学をして何を得ることができるのだろうか、と不安でいっぱいの留学前。そして、留学終了後の今、この10カ月間が自分にとって大きな意味のあるものになったと自信を持って言うことができます。

2010年の秋から、私はミシガン州のデトロイト市にあるウエイン州立大学で1学年間(2セメスター)学びました。留学先を知らされてまず始めに思ったことは、「デトロイト!?!」皆さんもご存知のように、デトロイトは自動車産業で有名な所ですが、困ったことに、犯罪率が高いことや、治安が悪いことでも有名な都市です。もちろん親や友達もそのような所に一人で留学に行くに聞いて心配しました。しかし行ってみると、危なそうな場所はあるけれど、キャンパス内には多くの警備もあり、日が経つにつれて慣れることができました。

しかし、行って一番驚いたことは3万人余り学生がいる大学に日本人が誰もいないということです。デトロイトという地を恐れて日本からの留学生が来ないそうです。留学をしても、その留学先で多くの日本人がいて英語上達に悩む、ということをよく聞きますが、行ってみると本当に誰もなくて、それはそれで不便なことも多く、始めの頃は大変な日々を送りました。大学では「日本人が来たぞ」と珍しがられ、日本代表のような存在になってしまい、日本のことがニュースなどで出るたびに、すぐ私のもとに「これはどうなってるんだ!」と聞いてくる学生が多かったです。始めはそれが非常にプレッシャーでしたが今となっては改めて日本をよく知る良い機会にもなっ

たし、日本人としての自覚や責任を培うことができました。また、大学で新しく日本文化を紹介するクラブのようなものも作り、友達や日本に興味がある人たちと一緒に楽しく活動しました。短期間だったので計画などには非常に悩みましたが、楽しく日本を紹介することができたかと思います。

授業は主に教育関係のものを取りました。中でも、Multicultural Education in Urban America(アメリカ都市における多文化教育)という授業では、デトロイト市における多文化教育の在り方等を社会的、経済的側面から考察し、知識と理解を深めるというもので、非常に興味深く、毎回授業に行くのが楽しみでした。それでもやはり英語力が原因で授業中や課題をするにあたって困難なこともたくさんありましたが、先生方や友達、クラスメイトのおかげで無事、課程を終えることができました。授業の一環で、デトロイト市の公立高校でボランティアをする機会もいただき、向こうでの教育の現状や仕組みなどを自分の目で見られる良い機会でした。



東日本大震災へのチャリティー活動
「ベイクドセール」



日本文化クラブを開催

始めにも書きましたが、日本中で留学をしている人はたくさんいます。その中でどのような留学生活を送るのか、その留学経験を今後どのように活かすのか、それは本当に自分次第なのだと感じました。自分の思い通りにはなかなかいかないけれど、目標を持って自分自身が動けば、きっと何かが見えてくるのだということを実感しました。もし、これから留学を考えている方がおられたら、ぜひ自分にしかできない留学をして下さい!

最後に、この留学生活を支えて下さったみなさんに心から感謝します。ありがとうございました。